

# 今、なぜ「オール電化病院」が注目され始めたのか

「蒸気使用部署は中央材料室だけ」最後の障壁が無くなった商品  
「スチームセル；(深夜電力使用) 蓄熱式蒸気発生装置付き滅菌装置」の紹介

宮坂 隆美 サクラ精機株式会社 洗浄滅菌事業本部 副本部長

要約 スチームセル「SC II；蓄熱式蒸気発生装置」の発売開始から約10年が経過した。今日に至る経過では紆余曲折もあったが、近年になって漸く市場が開けてきた感じがする。要因は「二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の大幅削減のために化石燃料の使用を減らし、同時に適正価格でエネルギーの安定供給を実現する」という主要各国の合意の中、待った無しの温暖化防止対策の中でも、特に「CO<sub>2</sub>削減」対応のためにオール電化病院の有効(利)性、各種展示会でのPR活動等が効を奏したのか、各電力会社の医療関連等のご担当者様からお声がかかるようになり、沖縄電力様を除く9電力会社様とコンタクトが取れた。全国的に「新築・増改築含むオール電化病院」の計画や導入に向けて前向きだ。弊社として、「2010年はオール電化病院元年」といえるエポック/トリガーの年と位置付けた。2009年NO.164で、弊社及び滅菌装置の歴史等を記載したが、本稿では環境問題のお浸いと、SCS「蓄熱槽一体型滅菌装置(SCS-B2600)」関連を中心に紹介する。

## 1. 医療関連トピックス

病院における主の収入源である「診療報酬」は、今まで継続的に引き下げが行われてきた。2010年には久しぶりに一部の科目で見直しが行われたが、今回の恩恵を得られるのは大病院が中心であると言われている。20床以上の病院施設数はかつて1万を超えていたが、平均30~50病院が毎年消滅し2006年には、ついに9000病院の大台も割り込んだ。政府としては、病院は入院患者中心、診療所は外来患者中心とする医療政策を打ち出しているが、しかし病床(ベット数)は約160万床もある。又病院は慢性患者を入院させる療養病床(高齢者向け)病院と、一般(疾病医療)病院に区分されている。政府は患者の入院日数、患者紹介率などによって診療報酬(DPC；入院治療費の定額支払制度で、1334施設くはほ300床以上が対象)が対象病院/1881病症例に設定されている)を設定し、一般病院の約半数を廃院にさせるか、高齢者向け病院に変えようとしているため、今後とも非情に厳しい病院経営が予測される。笑い話のようだが「差額ベット(個室、特別室等)分だけが、病院の利益」と言う医療関係者もいる。

製薬業界では2010年問題(各製薬会社に利益を貢献している特効薬の特許が、2010~15年に切れるためジェネリック(ゾロ)薬が市場に出る。過去には特許

切れ薬の利益が30%に落ちたケースもあった)があり、ジェネリック会社の多くは昨年までにこの対応をすべく設備を整えた。しかし近年本来の開発型製薬会社がジェネリック子会社を創設したり、新たな業種からの参入もあり、目を離せない状況である。アメリカでは特許が切れた翌日からジェネリック薬品が発売されると言う。ヒラリー議員が切り開いたアメリカの「国民皆保険」制度は、オバマ大統領がこの法案を辛うじて議会を通したが、10年後でも約1500万人の無保険者が残ると言われている。

※但し「ジェネリック薬品の国内売上高」は、医薬品市場全体のまだ6.5%しかない。

## 2. 環境問題

### 2.1 近年の異常気象

近年の異常気象(猛暑・暖冬/洪水・干ばつ現象等をイメージする人が多い)は、今年だけとっても冬季の各地での例年になく大雪、4月では三寒四温では無く一寒一温の日替状態でサクラ前線もダッチロール気味、又同17日(土)の季節外れの全国的な大雪、5月も比較的寒かった、平均より約10日遅れの6月2週で梅雨入りが宣言されたが、一部地域(九州、四国)を除き空梅雨であり、冷夏の予測もなされる中、お米